

皆様、こんにちは。
待ちに待った春到来です。皆様にはお元気で過ごしのことと存じます。
WBCは良かったですねー、文字通り世界一ですね。
私も久しぶりに野球を見てしまいました。

今月もここ1カ月ぐらいで世界で起こった食糧のトピックスをお届けします。

世界のリーダーが集結する？とされるダボス会議ではCO2削減を‘錦の御旗’にして、「なるべく農業をやめていこう」という、とんでもない論調が醸成されています。

具体的には、小国ながら農産物の取り扱いで米国に次ぐ2位に君臨するオランダで、牛を飼うことが禁止されたり、農地の強制収容、牛糞を肥料として使う事をEUが禁止したりと、とんでもないことになっています。

また肥料に多く使われる窒素が環境を破壊しているので、「肥料を使うのを禁止しよう！」という、ばかばかしい動きもありますので、農業を続けられたとしても生産量が大幅に落ちる可能性もあり得ます。

日本が最も多く牛肉を輸入しているオーストラリアでもCO2をより多く排出する畜産物の削減という事で、様々な規制がかかっています。

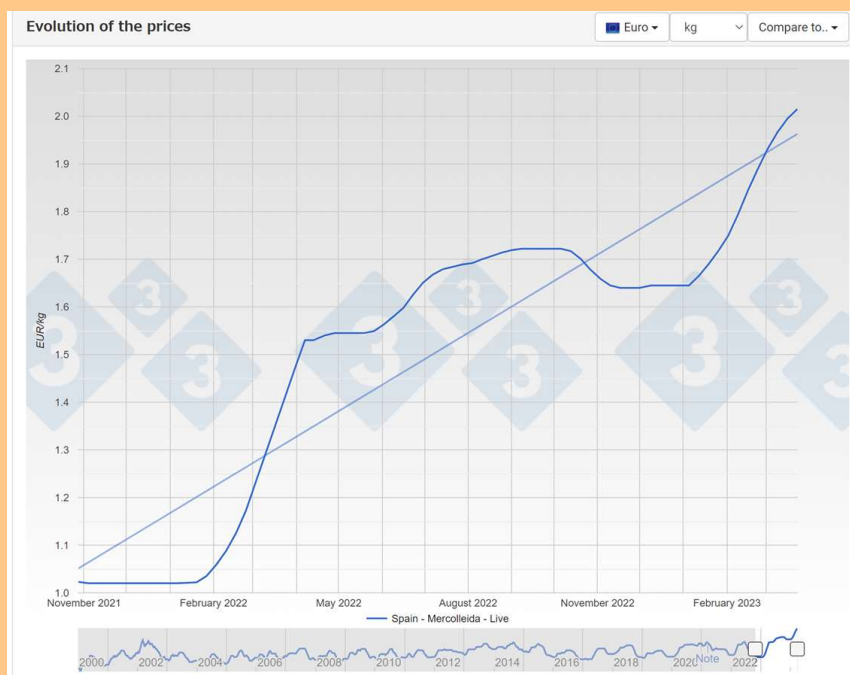
またCO2だけではなく、牛のゲップのメタンが駄目だとか、伝染病が蔓延するから駄目だとか、果てには動物虐待だとか様々な理由をつけて減らそうと躍起になっています。

ダボス会議では‘人口抑制’も頻りにテーマに出ているので、とにかくタンパク質を減らして人口を減らしていこうという事が共通の目標かもしれません。

元ファンドマネージャーで、「経済倶楽部」を主宰し、‘陰謀論’の大家とされる、横森一輝さんも、方向性としては、何が何でも肉の生産を減らそうとしてくるので、‘食糧危機’が来れば、肉類が最も不足する’とおっしゃっており、結論としては私と同じ所に到達します。

どちらにしても、ダボス会議のリーダー的存在であるビル・ゲイツが、いつのまにか全米一の農場主になっているので、話にならないというか、非常に分かり易い展開ですね。

現在我々の主要輸入先であるEUの豚肉価格が過去最高値を突き抜け、とんでもない価格となっております。参考までにチャートをつけておきますね。



世界三大投資家のジムロジャーズさんの新刊が、先月出版されました。
タイトルは何と「捨てられる日本」恐怖のシナリオがはじまった。危機の時代に備えよ！

という本です。

この中では、先々月のメルマガでも触れたラトガーズ大学のシミュレーションと同じく、異常気象や天災、コロナなどのパンデミックや家畜の伝染病による食糧危機に加えて、島国である日本の脆弱性、つまり、周辺海域で軍事紛争やシーレーンの破壊が起こった場合、食糧や燃料を積んだ船が近づけなくなって、深刻な食糧危機が起こる可能性が指摘されています。

また更に、日本の鶏肉の最大輸入国であるブラジルで、鶏インフルエンザの蔓延の疑いが生じており、今後輸入停止になる恐れがあります。

ブラジルの周辺国のチリ、ウルグアイ、アルゼンチンはもう既にアウトです。

こうなってくると、お弁当の王様、唐揚げが消えてしまう日もそう遠くないかもしれません...

今回は以上です。

ご一読頂き有難うございました。

ブラックスワン食糧保障

草間 弘人